

# ピアホームだより

2014. 2. 10

## 第 36 回家族と専門家の交流会から(続き)

今回も、交流会の質問から発展させて少し調べた最近の知見を載せたいと思います。

**質問要旨:**統合失調症は脳の海馬の異常が引き金になっているとの理化学研究所脳科学研究センターの実験結果が新聞に掲載されましたが？

**回答:**統合失調症や自閉症は、前頭葉や海馬などの記憶に関わる脳の領域を含む「デフォルト・モード・ネットワーク」と呼ばれる特定の脳の領域同志の繋がり方に異常がある可能性が示唆されて来ました。デフォルト・モード・ネットワークは、記憶を呼び起こしたり、未来の行動を立てたりするのに重要な役割を果たします。そのため、このネットワークが、どのように情報を処理し、どのようにほかの脳の領域と情報をやりとりするのかを探ることで、これらの病気にお

いて何が問題になっているかを解明できると考えられています。

同研究チームは一部の統合失調症患者が持っているカルシニューリン遺伝子の変異を同定し、この遺伝子の働きの異常が統合失調症を引き起こす可能性を示しました。カルシニューリンは学習や記憶のプロセスで誘導されるシナプス可塑性に重要な役割を果たす酵素です。この遺伝子が正常に働かない遺伝子改変マウスは、人の統合失調症に似た認知症状・異常行動を示します。

### 統合失調症の仮説

今日、統合失調症はドーパミン仮説で考えられていますが、陰性症状など説明のつかないところも多いのが現状です。そのためグルタミン酸受容体(NMDA)仮説、GABA仮説、カルシニューリン仮説、神経発達障害仮説、前頭葉機能不全仮説、ウイルス仮説など種々の仮説が提唱されていますがいずれも確たるものとして支持を得ていません。

### 一遺伝子研究の現在一

統合失調症は単純なメンデルの法則で説明出来るものでなく、環境因子による修飾も大きく

受けています。つまり遺伝的因子と環境要因が絡みあう多因子遺伝であるようです。現在、報告されている統合失調症と関連があるとされている遺伝子名を列挙します。

DSC1、NRG1、DTNBP1、COMT、DAOA、G72など一。

このように、今日統合失調症には数々の遺伝子の関与が報告されて来ています。今後、遺伝子変異を用いた細胞・動物モデルが作成され、病因遺伝子の機能解析が行われて行き、解明が進んでいくことでしょう。

### アドボケイト会(リトルハウス)移転の状況

1月16日現在、板橋区建築指導課に出す改築に関する関係申請書類が受理されました。都の担当課にも図面を持って行って説明を行ってきました。2月から改装工事に入りました。4月1日新住所での事業スタートに向けスケジュールが組まれています。都には、変更届をだし、監査を受けなければなりません。そのため、15日には法人の総会を設定しています。

### 2月の行事

<2月1日>クラブハウス町田評議会・理事会

<2月15日>アドボケイト会総会